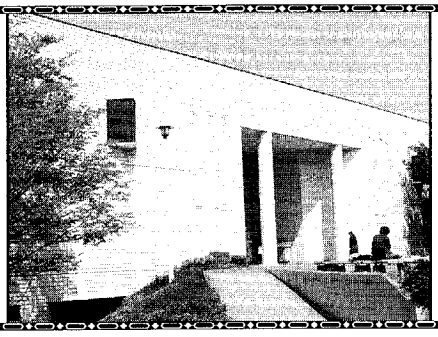
福島大学附属図書館報

書燈



No.21

1998.10. 1 発行

〒960-1293 福島市松川町浅川字直道2
TEL (024) 548−8083
http://www.lib.fukushima-u.ac.jp/
福島大学附属図書館

私の情報収集と図書館利用

行政社会学部 岡 田 悦 典

「図書館」に行くことは、多くの人にとって日常生活のなかで欠かせない「日課」であったり、「趣味」であったりするものです。私におきましても、「図書館」は、研究やその他の仕事のために、あるいは気晴らしのために、日々の生活に組み込まれています。特に、情報収集のためには、図書館は欠かせません。もっとも、人それぞれ、いろいろな図書館の利用の仕方があることと思います。

最近では、インターネットを利用して、私達はどの大学にどのような本があるかを検索したり、本の出版情報や、古本情報のホームページ、あるいは各新聞社のホームページを探っては、情報を収集できます。私も、インターネットをよく利用します。そこから具体的に図書を探したり、あるいは、思いもよらぬ発見をすることがあるものです。

私の図書館利用には、主に二つのタイプがあります。一つは、研究目的のために、『法律時報』などの文献索引で、論文を探索した後、図書館で目当てのものを探すことと、図書館に入っている雑誌や新聞を定期的に閲覧することです。特に、購読雑誌の購入には、個人の資力では限りがありますので、この作業が必要となります。もう一つは、一日たっぷりと時間をとって、図書館でゆっくりすることがあります。このときには、思いもかけない文献を手にしたり、あるいは、どこどこの図書館に行けば、あの文献が手に入るという、目安を付けることになります。私の専攻している法学の文献について言えば、福島大学の図書館の他に、県立図書館などの公共施設も、日本の文献については、結構、充実していると思います。今では、インターネットによって福島大学図書館のホームページ（http://www.lib.fukushima-u.ac.jp/）や、NACSISのホームページ（http://www.nacsis.ac.jp/）に入って、検索した後に、図書館に赴くことが多くなりましたが、今日一日は、どこそこの図書館で勉強するぞ、と決めたときは、日常のなかで情報収集が可能な状態を作れるよう、心がけています。

私の場合、具体的に図書館に行く時には、多くの時間を費やすことを覚悟しています。特に遠方へ行くとき、国立大学の図書館に行く時のための共通閲覧証、私立大学の図書館に行く時の、その時々の紹介状を作成してもらわなければなりませんし、それを携えてはるばる行くことになります。また、福島の図書館では見れない雑誌や文献を一緒に検索することになります。福島大学の図書館以外の近場の図書館には、自宅とか研究室とは違う雰囲気を作り、気分を変えるために、勉強しに行く時があります。そのときは、特に休日の午前とか、時間的に余裕のあるときとか、時間をできるだけ無駄遣いしないようにしようという意図が、私にはありますが、いずれにせよ、たっぷりと時間をとることにしています。

さて、図書館に行く時には、ついつい新聞や雑誌を読んでしまいがちですが、何らかの目的をもって行くことは、大変に、有意義だと思います。そうやって、毎日図書館に行っていると、図書館が自分の書斎のように思う人もいることでしょう。中には自分では本を買わないで図書館を利用すると、徹底している人もいるようです。また、小説や、最近ではCD、カセットテープ、ビデオテープなどを借りることができる図書館もあります。これらを利用できるということは、本当にうれしいことです。

是非、皆さんも自分なりの利用方法を開拓してみてください。

思い出の一冊

教育学部　伊　藤　幸　夫

「思い出の一冊」としては、物理にひかれる切っ掛けとなった本などを挙げるのが順当かとは思いますが、ここでは敢えて「また読んでみたいなと時々思い出していた本」ということで、童話を一冊選んでみました。

それは「鮎吉　船吉　春吉」という本で、作者は室生犀星。小学校低学年の時に読んだ挿絵の多い単行本で、「のらくろ」や戦記物を除いては何もない時代の最初に出会った童話ではなかったかという気がします。その本は洪水にあったりで今は形を留めていないと思われます。しかし細かい内容は忘れても題名と作者名だけはずっと覚えていました。そのため作者は童話作家だとばかり思い込んでいましたが。

何年か前この本の話を国語の澤先生にしました。程なく「ほるぷ」の日本児童文学大系第九巻に収められている該当作品のコピーを頂きました。それによると昔読んだものは小学館の雑誌「国民三年生」に連載されていたものが単行本として昭和17年に出版されたもののようです。

私の生れた所は石狩川の支流の忠別川の堤防のすぐそばで、そこでは暇さえあれば魚を釣ったり虫を捕ったり動物の飼育を手伝ったりと自然と一体となって過ごしたものでした。その環境と、この本の表題にある３人の子供たちが遊んだ環境とが似ていて、このことがあってこの本の内容が長い間頭の片隅に残っていたものと思います。

当時の読み物は時節柄戦争一色でしたが、この本は戦争のことは間接的に触れている程度というのも異色で、このことからも新鮮さを感じたのかもしれません。約半世紀を経て読み返してもそのころの新鮮さが失われていなかったことにも驚きを感じています。

環境も自分自身も当時と比べ大きく変わってしまいましたが、自然の中でのびのびと遊んでいた時代があったことへの思い出の一冊として貴重な一冊ということができます。最後になりましたが、この本を探していただきました澤正宏先生に改めてここで感謝申し上げます。

「ヘイカ」にいらっしゃい!!

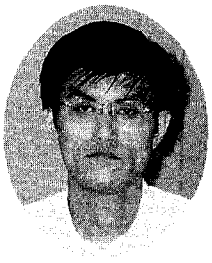
―カウンターの内側から―

大学院経済学研究科
斎藤　公一

利用者の皆さんは閉架（へいか）書庫（以下、ヘイカという）をご存知ですか。正面入り口から見て、図書が見えるところにあるのが開架（かいか）閲覧室です。ヘイカは、入り口から見えない奥まった書庫です。

ヘイカには一体何があるのでしょうか？本学開学以来の新旧和洋の各専門雑誌・大学紀要・研究用文献などが配架されています。昭和56年春に本学が金谷川キャンパスに移転する以前の文献は、２種類に分けられています。それを旧経済・旧教育と呼んでいます。それでは、移転後の文献は何とよばれているかと言いますと、「７・８版」と呼んでいます。本学附属図書館固有の呼称ですので、悪しからず。この固有名詞は、ヘイカを利用する時大変役に立ちますので覚えてください。

ヘイカに入る資格と手続きは？学部３年生の７月１日から、カウンターで「ヘイカに入りたいのですけど。」と言えば手続きできます。ヘイカを利用する最低条件は、「文献の配列を乱さないこと」です。これを守れない人にはヘイカを利用する資格はありません。残念ながらヘイカに入れない１・２年生は、「図書閲覧証」に請求図書・雑誌名を記入の上カウンターにご請求下さい。



どうしてヘイカにいらっしゃい？あくまで一般論ですが、研究に必要な参考文献を研究者自らが検索することは、学問研究行為の一構成要素であると認識されているからで、すなわち、学生が卒研・レポート提出のために参考文献をあれこれ探し歩くことも研究教育の内であるとされているのです。カウンター係の怠慢ではないかなどと決して邪推しないで下さい。コンピューターで検索した後ヘイカで文献を探すと、意外に研究に役立つ文献がみつかる副産物があったりします。これが、結構楽しかったりするのです。ヘイカは、あなたと未知なる精神世界の遭遇するところなのです。まずは、お試しあれ！

抜群の研究環境とボードリアン

行政社会学部　栗原るみ

オクスフォードには多くの図書館があった。中心は貸出をしないボードリアン図書館。終日図書館にこもって文献を読むというのが、学生の基本型らしい。もちろん現在はノートパソコンの持ち込みもできるし、コピーを頼むこともできる。この図書館は、大英図書館より150年も前の1602年にトーマス・ボードレイ卿によって再建されたという伝統もので、英国とアイルランドで出版された書物は1610年以来全部ここに一部は入ることになっているらしい。外国のものは一生懸命買っているという話だった。

学部や研究所やコレッジもそれぞれ図書館を持っていて、これは貸出もする。私の滞在していたニッサン日本研究所には、ボードリアン日本図書館が併設されていたが、ボードリアンの図書は借りられないが、日本研究所が持っていたものは貸出可能といった変則であった。そうした複雑な事情を飲み込むまでに、結構いろいろなことがあった。

ボードリアン図書館は観光でも有名で、特にラトクリフ・カメラはオクスフォードの目印とも言える円形の建造物だ。だが、観光客は建物には入れるし、記念品の売店にも行けるが、図書館部分には入れない。その中の事務所で、写真をとって、宣誓して、入館証を発行してもらえる。私の場合、大学のビジターだというスタッフの証明書を持っていったので、簡単だったが、研究者はそれと証明するものがあれば、入館証は得られるらしい。これを書くにあたって、図書館の手引きを探したが、整理能力欠如のため、ひとつも見つけられなかった。日本でも友の会があり、入っているという日本人にも多く会ったから、その辺の情報は福大の図書館でもきっと分かるだろう。

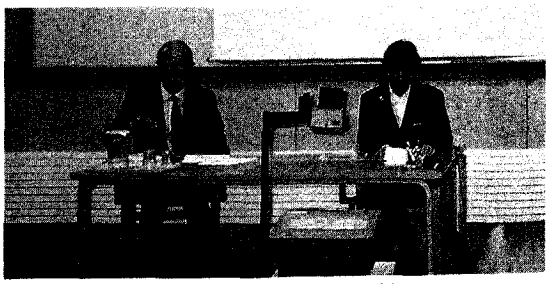
全体像を紹介するのは困難だが、使ってみた経験は書くことができる。まだついて間もない頃、せっかく英国へ来たのだから、生の文書を探したいと思った。でも何をどうやって。私は日本の大恐慌の前後の時代の農村や村長のことを研究してきた。だから、それと比較できるような史料はないか、というアプローチを考えた。多分英国において日本の村に当たるのは、パリッシュといわれる教区だろうと当たりをつけた。そしてここら辺の近くのパリッシュの運営に関わっていた人で、日記を残している人はいないか。当たって砕けろ。

結局私はオクスフォード州のローワー・ヘイホードというパリッシュに住んだ、救貧法の救助官のジェイムス・デューという人の日記とその他の文書の８箱を目にすることができた。ニューライブラリーの西欧の手書き文書室で、それらにであった時は、ちょっと興奮。彼は1864年に生まれ、1928年になくなっているので、時代的には少し早すぎる人ではあったのだが。現在のその村にも、ちょっと訪ねてみた。チャウエル運河の流れる美しいところで、地域新興計画を作るための村の相談が始まりつつあるという話だった。

ただ英国史の研究は門外漢の私が、いきなりそれらの文書に取り組むのは、いかにも知識不足に思えた。地域史はそれなりに盛んなのだが、経済史の大きな問題もせっかく英国にきたのだから、考えるべきではないか。オールソールズというここも由緒あるコレッジで開かれていた経済史のセミナにでて、あなたの説では、なぜ日本はファシズムという選択をしたと説明するのなんて聞かれて答えに窮したりして、ケインズ理論の浸透過程をめぐる問題に触発されてもいた。初めての海外研修で英語が得意とは言えない私が、何を読むべきか。

図書館との関係では、ニッサン日本研究所の私の研究室のコンピューターで、オクスフォードのボードリアンとその他図書館全部の所蔵図書を検索ができるようになり、大いに助かった。この目録を検索し、ブラックウエルという本屋さんで買える本は注文する、もう手に入らない本は借りられる場所を探して、借りてコピーすることにした。借りられればニッサンで１月500枚は無料でコピーできる便宜を計ってくれたのだ。

なかなか苦しい研究生活ではあったのだが、改めて書いてみると、言葉の不自由な人にも、一生懸命対応してくれるライブラリアンの思い出とともに、オクスフォードは美しかったなと、結べるような気がする。



－日本研究所での報告風景－

ジャン・ボダン『国家論』（1579年、リヨン）［その1］ 展示資料解説

経済学部　岩本吉弘

今、図書館カウンター前の展示ケースには、ジャン・ボダンの『共和国六書』（通常『国家論』と呼ぶ）1579年リヨン版が置かれている。近代的な国家主権論を初めて概念化したことで世に知られる政治思想史上第１級の古典であり、また本学図書館の蔵書中最も古い資料と言われる。せっかく貴重な書物の実物を間近に見ることができるわけだから、ここでは私は、ボダンの政治思想の一般的な解説よりも、この書（というよりもこの版）について、読むと言うより眺める側に立って、書いてみようと思う。1450年頃のグーテンベルクの発明に始まる西洋の活字本の歴史は長く深い。だが、今ここにある四百年以上前に印刷された１冊の本をしばし眺めてみることでも、その一端には触れられる。

まずは、開かれているタイトル・ページを眺めよう。上段の書名の部分と下段の出版地、出版者などの出版事項の間の、何やらいわくありげな大きな木版画（このような書物の装飾画を「ヴィネット」と呼ぶ）が目に入る。まずこれから始めよう。

井戸を挟んで聖人と一人の女性が話をしている。聖書に詳しい方はお分かりだろうが、これはヨハネの福音書にある「イエスとサマリアの女」の話を描いたものだ。聖書によると、イエスは井戸に水汲みに来た女にこう語っている。「この水を飲むものは誰でもまた渇く。だが私が与える水を飲むものは決して渇かない。わたしが与える水はその人の中で泉となり、永遠の命に至る水がわき出る。」

これは現在の我々の感覚では、本の内容に関連した挿し絵のようなものかと思うが、そうではない。「パブリッシャーズ・ディヴァイス」などと呼ばれる、つまりはこの出版業者の商標、看板のようなものである（例えば岩波書店の「種播く人」のような）。本の冒頭に我々が今思うようなタイトル・ページというものが付けられるようになったのは、何も最初からではなかった。活字以前の手書き写本の時代には、タイトルというものを名詞句のようにして独立に冒頭に書く習慣はなく、また写字生が自分の名前を記すこともほとんどなかった。印刷業という新しい職業は、15世紀半ばに写本時代の習慣を引き継ぎつつ出発する。今我々の思うようなタイトル・ページというものは、その後16世紀にかけて急速に拡大したこの新しい職業人たちが自らにふさわしい営業形態を作り出す過程、もっとはっきり言えば、ある程度匿名化した顧客に自分の商品と自分の企業名を売り出そうとする努力の過程で徐々に現れてくる（一部の国では最後に決定づけるのは国家による統制であるが）。

LES
SIX LIVRES
DE LA REPVBLIQVE
DE I. BODIN ANGEVIN.
A MONSEIGNEVR DV FAVR, SV
AVEC PRIVILEGE DV ROY.

印刷業者たちの自己主張は、当初コロフォン（本の最終ページの奥付け）に現れた。彼らはそこに、自分の名前や出版年などの他に、各々独自のマークを考案して印刷するようになった。一方、本の冒頭部分には、「パラグラフ・タイトル」（本文の最初のパラグラフを切り離して最初のページに印刷したもの）や「バスタード・タイトル」（略題紙）といった、読者のためのタイトル・ページというより書籍商の目印に近いような簡略なページが置かれるようになる。我々が今思うようなタイトル・ページとは、コロフォン部分にあった出版者自身に関する情報が表に進出してくるようにして成立する。今目にしているボダンの書のように、上からタイトルーヴィネットー出版事項という、現代でもよく見られる３段構えの配置が定着するのは16世紀前半である。

このパブリッシャーズ・ディヴァイスというものは、当初は簡単な文様のようなものだったが、16世紀に入って非常に大きくまた手の込んだ絵柄のものが現れる。このボダンの書に使われているものも、その一例である。

このディヴァイスの持ち主、つまりこの本の出版者は、ページの下段に名前があるようにジャック・デュピュイという人物である。1540年から1591年にかけて親子でパリで活動した出版業者である。デュピュイがこの聖書中の逸話を選んだのは、その名前du Puysと「puits　井戸」という語をかけたものに

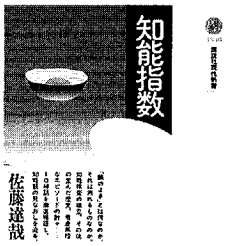
ちがいない。上のイエスの言葉も出版業者のモットーとしてなかなかいい。デュピュイは、このボダンの書に使った図柄の他にも、この「イエスとサマリアの女」で異なる図柄のディヴァイスをいくつか持っており、同じボダン『国家論』でもパリ版には別のものが使われている。また、1582年に出版した『プリュターク英雄伝』にはこのリヨン版と同じ図版を使っている。

写真では見にくいかもしれないが、この図の井戸の部分の中心あたりに、アルファベットを含んだ楕円形のマークのようなものがあるのに目を留めていただきたい。I・D・Pという文字はもちろん彼のイニシャルである（ちなみにiとj、uとvの区別が一般化するのは17世紀である）。またその上のバーが2本ある十字架は、15世紀以来各地の印刷・出版業者のディヴァイスに非常によく用いられた図柄である。はじめ15世紀時点ではこの円形のマークほどの簡略なものから始まったディヴァイスが、16世紀にこの図全体のようなものに大発展したわけである。

（つづく）

学内教官著作寄贈図書の紹介

IQに惑わされるな！
『知能指数』
東京　講談社現代新書
1997.2
佐藤達哉著
（行政社会学部助教授）
（http://133.52.71.16/ads/sato/new.html）



この本は題名のイメージとは逆に、「IQでアタマの良さがわかる」という自明視化された知識を楽しみながら疑うことを目的にした本です。

また、知能検査がひきおこした悪行（断種など）のエピソードの検討もしています。

誰それのIQは130だ、みたいなことを聞くと、ついその人のことを「アタマがいい人」と思ったりしてしまいますが、それほど根拠のあることではないのです。

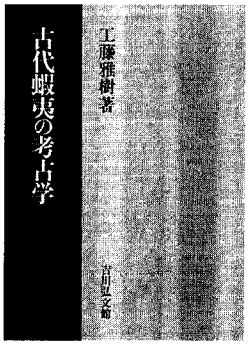
むしろ、数値で人を捉えるとかえって害があるということを本書では強調しています。

人を単純な数値で捉えられると思ってしまうのは、「知能のような人間の性質が人間の内部にある」という仮定があるからです。しかし、よく考えるとそれは変です。私たちはいろんな状況でいろんな人といろんなモードで接することができる極めて柔軟な存在なのですから。

この本を読んで、みょーなIQコンプレックス（がもしあるとすれば）を笑いとばしてほしいと思います。

（請求番号371.8/Sa85c　学内刊行物コーナー）

『古代蝦夷の考古学』
東京　吉川弘文館
1998.1
工藤雅樹著
（行政社会学部教授）



拙著『古代蝦夷の考古学』（一月刊）は『蝦夷と東北古代史』（六月刊）および『東北考古学・古代史学史』（近刊）とあわせて著者の古代東北の文化と歴史、とりわけ古代蝦夷についての考えを、東北・北海道の考古学と古代史、それに加えてアイヌ文化とアイヌ史研究の成果をふまえながら次のような点を中心に述べたものである。

古代蝦夷についてはそれをアイヌとする説とアイヌではなく辺境の日本人だとする説に分かれているが、両説が根拠とする論点にはともに否定できない事実が含まれており、両説を対立する説と見ることはできない。著者の考えでは東日本の日本人、古代蝦夷、アイヌはともに東日本から北日本の縄文人の子孫で、それぞれの地域の縄文時代以後の歴史の歩みのなかで東日本の日本人、古代蝦夷、アイヌへの道をたどったのである。また古代蝦夷の社会は部族制社会であることもあわせて論じている。

（請求番号210.2/ku17k　学内刊行物コーナー）

図書館では学内関係者の著作物を収集しております。出版されました際は、ぜひ図書館にご恵贈くださるようお願いいたします。

平成10年度大学図書館職員長期研修報告

情報管理係　安斎善明

研修は、平成10年７月13日から７月31日までの３週間、最初の１週間はつくば地区、残りの２週間は東京地区で開催されました。北は北海道、南は鹿児島までの国公私立大、各機関より42名の研修生が受講しました。

研修内容は、講義の他、実習、グループ討議、見学研修と、「大学図書館行政」から始まり「情報リテラシー教育への参画」まで多岐にわたり、充実した毎日を過ごす事ができました。

研修のテーマは、電子図書館への対応と電子図書館時代の図書館サービスの在り方でした。

講義で説明された「電子図書館システムの研究」の中で印象に残った研究は次のとおりでした。

(1)分類番号生成システム…資料の目録情報源と目次をOCRで読み取り変換し、自然語処理で分類番号を生成するシステムで、現在約80%の正解率である。

(2)NACSIS-ELS…雑誌のすべてのページを画像としてデータベースに蓄積し、利用者の手元に高速ネットワークを通して学術情報センターから直接供給する機能を実現している。

(3)Z39.50を用いた日本語書誌情報サーバの試作…情報提供にWWWを用いるシステムでは、検索結果集合の蓄積や、ネットワーク上の複数のデータベースに対する同時検索などが行えなかった。ANSIによる標準情報検索プロトコルであるZ39.50に基づいたシステム開発を行うことによって、これらの欠点を克服できる。

(4)WWWページへの多言語アクセスシステム（MHTML）…Webページを読むために普及しているNetscap CommunicatorやMicrosoft Internet Explorerなどのブラウザソフトでは同一ページにいくつもの言語があるとうまく表示されない。しかしMHTMLを用いると、テキスト内で実際に使われている文字を自動的に調べ、その文字フォントだけを先に送ることにより、利用者側は特別な準備なしに、どんな端末でも、ブラウザソフトが何であっても、また同一テキスト内で使われている言語が何種類であっても、うまく表示できる。

(5)立体自動書庫…立体の書庫で、小さなボックスの集合体であり、従来の分類番号別に収納するのではなく、ボックス単位でコンピュータに管理され、受入順に収納される。

また、見学研修で印象に残ったことは次のとおりでした。

(1)筑波大学附属図書館…筑波大学で作成されている各種データベースをハイパーリンクし横断的検索を可能にしている電子図書館システム。また図書館ボランティアが48名いて、いろいろな活動をしているのには驚きました。

(2)慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス…図書館はなく、紙や電子といった媒体に関係なく一元的にサービスするという考え方から、メディアセンターが置かれている。また学生は、入学時から徹底したコンピュータ教育を受けている。

(3)国立国会図書館…古い資料を専門職の方が見事に修復している姿には、感心させられました。

(4)東京工業大学附属図書館…Arielという文献画像伝送システム（文献をスキャンで読み込んで画像データ化し、画像データを圧縮し、圧縮されたデータをインターネットを通じて他のArielシステムへ転送し、転送された圧縮データを画像データに直し、プリンタから出力する。）

電子図書館はマルチメディア技術を最高度に利用したシステムである。そして利用のために取り出す情報の単位は細かいものになる。何がその基本単位かは、資料等により異なり、うまく設定し、それを種々の方法で検索して、答を利用者に与えることができなければならない。

さらに電子図書館においては、どの範囲の情報を収集すべきか、レファレンスの在り方はどうなるのか、貸出・返却という概念はどうなるのか、知的所有権問題など、いろいろ問題があります。

目標とする電子図書館をどのように実現していくかを考えるのに大変貴重な研修となり、この研修で得た多くの知識を手がかりに勉強していきたいと思います。

最後に、文部省を始めとして、研修全般にわたりお世話いただいた図書館情報大学の皆様、講師の皆様、研修の仲間の皆様、そして、お忙しい中こころよく研修に送り出していただいた図書館の皆様、情報管理係の皆様に心より感謝いたします。

レファレンス・カウンターにある“レファレンス依頼票”

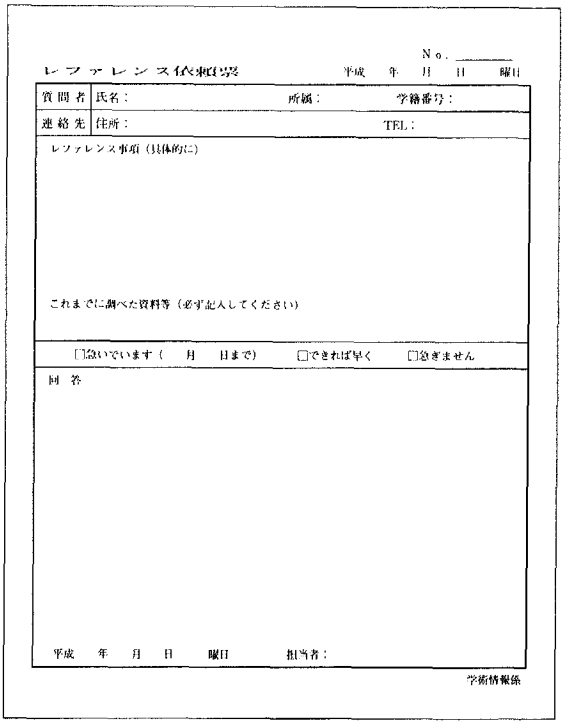
―― 学術情報係 ――

皆さんは、**レファレンス・カウンター**をご存知ですか。開架閲覧室のカウンターに向かって左端の角のところにあります。図書館というと、本を借りる、返すところと思っている方がたくさんいると思いますが、それ以外にもいろいろなサービスをおこなっています。今回はこのカウンターに置いてある**レファレンス依頼票**をご紹介します。

“レファレンス”？普段はあまり見られない、聞きなれない言葉ですね。原語はReference、図書館の専門事典を引けばかなり詳しく説明されていますが、『現代用語の基礎知識』にもちゃんとあります。“レファレンス・サービス”とは「図書館が利用者の質問に調査をして回答すること」。ですからこの依頼票を日本語にすれば**調査依頼票**となります。今までで多いのは「～～～が掲載されている本は？」「～～～に関する雑誌の論文は？」など、自分のほしい文献が何に載っているのか分からない場合（これは学部学生さんが多い）、レポートや論文を書く場合の関連文献の調査（これは院生が多い）。特に外国雑誌の論文調査は調べる道具が少なく大変ですが、この依頼票で申込めば係員が外国雑誌のデータベースを検索し、その結果を皆さんにお知らせすることもできます。

さて、この依頼票の申込みには注意事項が一つだけあります。それは、必ずこれまで自分で調べた資料を明記してほしいということです。調べた資料がない場合は“なし”と書いてください。

図書館利用の基本は利用者自身が文献を調べ、探し出し、利用することですが（そのための目録、参考図書類を図書館は少なからず備えております）、おのずと限界があります。**レファレンス依頼票**、これをうまく活用すれば図書館の利用価値もさらにアップします。お気軽にご利用ください。



No. ＿＿＿

レファレンス依頼票　　平成　年　月　日　曜日

質問者	氏名：	所属：	学籍番号：
連絡先	住所：		TEL：

レファレンス事項（具体的に）

これまでに調べた資料等（必ず記入してください）

□急いでいます（　月　日まで）　□できれば早く　□急ぎません

回答

平成　年　月　日　曜日　担当者：

学術情報係

図書データベースの現状

情報管理係

―平成10年８月末現在―　（蔵書数は製本雑誌を除く）

	蔵書数	機械入力数	入力率
旧分館蔵書　（'75年度まで）	281,994	73,086	25.9%
統一図書館～電算化前（'76～'87年度）	175,570	173,208	98.6%
小計（遡及分）	457,564	246,294	53.8%
図書館業務電算化以降（'88年度以降）	139,457	133,299	95.5%
合計	597,021	379,593	63.5%
簡略データ		15,750	2.6%

附属図書館開館・休館予定表

平成10年10月～平成11年３月

夜間開館停止（開館時間９：00～17：00）　開館日（開館時間９：00～21：00）　休　日　●印　休館日

日＼月	10月		11月		12月		1月		2月		3月	
1	木		日		火		金	●元旦	月		月	
2	金		月		水		土	●	火		火	
3	土		火	●文化の日	木		日		水		水	
4	日		水		金		月	●	木		木	
5	月		木		土		火	●	金		金	
6	火		金		日		水	●	土		土	
7	水		土		月		木		日		日	
8	木		日		火		金		月		月	
9	金		月		水		土		火		火	
10	土	●体育の日	火		木		日		水		水	
11	日		水		金		月		木	●建国記念の日	木	
12	月		木		土		火		金		金	
13	火		金		日		水		土		土	
14	水		土		月		木		日		日	
15	木		日		火		金	●成人の日	月		月	
16	金		月		水		土	●大学入試センター試験	火		火	
17	土		火		木		日		水		水	
18	日		水		金		月		木		木	
19	月		木		土		火		金		金	
20	火		金		日		水		土		土	
21	水		土		月		木		日		日	●春分の日
22	木		日		火		金		月		月	●振替休日
23	金		月	●勤労感謝の日	水	●天皇誕生日	土		火		火	
24	土		火		木		日		水		水	
25	日		水		金		月		木		木	
26	月		木		土	●	火		金		金	
27	火		金		日		水		土		土	
28	水		土		月	●	木		日		日	
29	木		日		火	●	金				月	
30	金		月		水	●	土				火	
31	土				木	●	日				水	

※　臨時に閉館する場合、及び開館時間を変更する場合は掲示します。

目　次

・私の情報収集と図書館利用……岡田悦典(1)
・思い出の一冊……伊藤幸夫(2)
・「ヘイカ」にいらっしゃい!!
　―カウンターの内側から―……斎藤公一(2)
・抜群の研究環境とボードリアン……栗原るみ(3)
・展示資料解説
　ジャン・ボダン『国家論』
　（1579年、リヨン）［その１］……岩本吉弘(4)
・学内教官著作寄贈図書の紹介
　IQに惑わされるな！『知能指数』……佐藤達哉(5)
　『古代蝦夷の考古学』……工藤雅樹(5)
・平成10年度大学図書館職員長期研修報告
　……安斎善明(6)
・レファレンスカウンターにある“レファレンス依頼票”
　……学術情報係(7)
・図書データベースの現状……情報管理係(7)
・附属図書館開館・休館予定表
　（平成10年10月～平成11年３月）……(8)